

いちばらフィールドマップ 姉崎

総距離 約5.5km (移動時間のみで約165分)

- 【凡例】**
- 標柱のある歴史遺産
 - 主な歴史遺産等
 - ◆ 公共施設等
 - ➔ 推奨ルート
 - - 未舗装道路
 - 消滅した古墳
 - 現存する古墳



広瀬蘆竹が描いた姉崎の風景



姉崎浦潮干狩



八坂神社



川崎稲荷



藩校 修来館



姉崎町全市



妙経寺



姉崎神社

齋藤孝と広瀬蘆竹
 地域文化の発展に尽くした郷土史家齋藤孝は、画家の広瀬蘆竹に依頼し、故郷姉崎の故事や年中行事を描かせました。蘆竹の絵は、明治期の姉崎町の風景や慣習を知る上で、大変貴重な歴史資料です。



直弧文石枕 (二子塚古墳出土)



単龍環頭大刀 (姉崎山王山古墳出土)



六孫王原古墳





AN-04 妙経寺

寛正元年(1460)、日暁上人の開基と伝わる古刹です。関東に入った徳川家康から寺領10石を寄進され、徳川光圀や小林一茶が旅の途中に立ち寄ったことで知られています。境内地には、鉄砲誤射事件に連座して遠島になった主人を救った義僕市兵衛や、戊辰戦争で亡くなった徳川義軍戦没者の墓が残るほか、区画整理時に行われた発掘調査では、貝塚や古墳が確認されています。



AN-05 二子塚古墳

標高5mほどの砂堆上に位置する大型前方後円墳で、全長は約110mあります。前方部と後円部の2か所で見つかった埋葬施設からは、鏡、玉類、武具、馬具などが出土し、墳丘の中段と下段には円筒埴輪が列状に置かれていたとされます。出土遺物の特徴から、5世紀前半の築造と考えられます。また、直弧文と呼ばれる呪術的な模様彫られた石枕は、国の重要文化財に指定されています。



AN-06 椎津城跡

水陸交通の要衝に位置する戦国時代の城郭で、市内最大級の規模を誇ります。この城を巡っては、足利氏、武田氏、里見氏、北条氏らによる激しい争奪戦が、幾度となく繰り返されました。こうした攻防の歴史は県内にも例がなく、房総の戦国史を語る上で欠くことのできない城郭です。高さ1mを超える土塁や、深さ2mに及ぶ空堀などが残り、中世城郭の特徴を知ることができます。



AN-07 六孫王原古墳

台地最奥部に位置する前方後方墳で、全長約45mあります。後世に大きく壊されていますが、後方部には凝灰質砂岩を使った横穴式石室がつくれ、副葬品として金銅製馬具の破片、直刀片、鉄鏃、刀子が見つかっています。また、後方部の墳頂には須恵器の大甕が置かれていたようです。7世紀後半の築造と考えられますが、終末期の前方後方墳は全国的に珍しく、異例な存在です。



見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないよう行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合があります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちほらフィールドマップ

制作・発行：市原市教育委員会

市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 Tel.0436-41-9000 Fax.0436-42-0133

令和3年3月 第1版第1刷発行

I Museum Field

姉崎



上海上国造の本拠地として栄え、房総有数の規模を誇る古墳が残る姉崎エリア。中世戦国期には、この地を巡る争奪戦が繰り返され、近世には多くの文人墨客が来遊しました。姉崎は、文物が行き交う交通の要衝です。

I Museum



AN-01 姉崎神社

延喜式神名帳に記載される古社です。島穴神社の祭神とは夫婦で、夫の帰りを待ちわびた当社祭神がこれを嘆いたとされ、境内や氏子地域では「待つ」と同音の「松」を避ける風習があり、正月も門神を用います。現在は途絶えています。源頼朝が鎌倉へ向かう途中、社前で馬をそろえて戦勝祈願したことから、流鏝馬神事が始まったと伝わります。境内には古墳時代の円墳3基も残ります。



AN-02 姉崎天神山古墳

全長130メートルで、市内最大、南関東でも十指に入る規模の大型前方後円墳です。発掘調査が行われていないため、詳細は明らかではありませんが、前方部が平坦かつ細長く、後円部に比べて低い点や、平地を見渡す台地先端に立地する点などから、古墳時代前期の4世紀前半に築造されたとみられます。墳丘のくびれ部には、菅原道真を祀った社が鎮座します。



AN-03 鶴牧藩庁跡

鶴牧藩は、文政10年(1827)に水野忠昭(ただてる)が安房国北条藩から国替えとなったことにより成立し、以後忠実、忠順と明治4年(1871)の廃藩置県まで3代続きました。藩庁は現在の姉崎小学校敷地内の陣屋に置かれ、周辺には武家屋敷が広がっていました。忠順が創設した藩校修来館では、30年の歳月をかけて中国の歴史注釈書の改訂を行い、鶴牧版史記評林を完成させました。